

土肥原洋先生の思い出

白井邦彦

本学経済学部は土肥原洋先生にあらゆることでお世話になりました。研究科委員長としてよりも、経済学部の教務主任として長くお付き合いをさせていただいた立場として僭越ですが、少しだけ思い出を語らせていただきます。なかでもとくに、キャリア委員長の頃に、経済学部のキャリア教育の一環として、経団連の中核組織である東京経営者協会との連携で作った企業論、特定の金融機関の寄附講座など、オムニバス授業をいくつも作り、その運営を担ってられました。オムニバス授業は授業が始まってしまえば、担当者は休講したり遅れることは絶対にできないのですが、比較的楽です。しかし、授業を始めるまでが大変なのです。担当者との打ち合わせやレジュメなどの準備、これらを我々は他人事のように見ていました。しかもこれらの科目は、当初、すべて講義録を作成していたので事後的にも講義録のチェックが必要になり、すべて土肥原先生にお任せしておりました。個人的にはレポートの採点や授業の出席管理だけをお手伝いしましたが、最も大変なところは無責任にも土肥原先生に任せきりでした。いま思えば無礼千万だったと心から反省しています。

ほかにも、学部内の業務でカリキュラム委員長を歴任していただき、多くの人事案件の審査委員長も努めていただきました。

際立っていたのは、2017年度の日本経済政策学会全国大会でした。開催は4月末のGWの頃でしたが、その2月のプログラム委員会の直前に経済学部の学会の開催の責任者の理事の教員が突然体調を崩して降板し、一方的に土肥原先生に依頼して降板したのです。土肥原先生は体調不良なのだからと怒りもせずに引き受け、獅子奮迅の働きで見事に開催と運営を成功させました。紙ベースのレジュメの準備と郵送だととても間に合わないので学会のホームページに一時的なサイトを設けて、報告希望者の申込みと報告レジュメをそこに期間限定で掲載し、参加希望者は自分でそれを事前に印刷して会場に持参する形にして、それらの調整のすべてを土肥原先生が処理し、実現させました。むろん、当時、申先生、布田先生、わたしやアルバイトの学生たちも手伝いましたが、その大会の開催と運営の成功のほとんどすべては土肥原先生のご尽力の賜物でした。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。このように、土肥原先生の本学経済学部への貢献と有能さについては枚挙に暇がありません。またお人柄についても、ゼミの学生一人ひとりに気を配り、行末を案じる方でした。退職の年度に勲章を授与されることになっても学内で口外しないよう頼まれました。もう時効なので公表しても良いと思いました。ごいっしょに仕事ができないのが残念でたまりません。本当にどうもありがとうございました。数々のご無礼をお許しください。